

**■まとめ（計画の見直しの必要性）**

点検を通じて明らかとなった今後の課題、委員会指摘事項、調査・研究での課題を踏まえ、第2期計画期間での取り組みについて見直しをしていくものとする。

第1期計画期間では、既存の取り組みに新たな知見を反映させた対策として、既存施策の着実な実施、充実と連携、モデル的な施策と新たな施策の実施、情報の共有と住民参画の推進、現況把握・解明のための調査・研究とモニタリングの実施を施策の方向性に定め、対策保全分野での効果的な対策の推進を図った。

点検を通じて、これまで以上の取り組みや継続性の維持、適正な維持管理などが不可欠であり第1期計画で得られた経験知を活かした重点的施策と更なる保全対策を実施することが望ましいことが明らかとなった。

また、委員会を通じて「施策・事業と効果の関係の明確化」（アウトカム及び指標の明確化を図り、施策・事業と平行したモニタリングと事業効果の検証の双方が必要）、「様々なアウトカムに対応した多様なモニタリング」（幅広いニーズや今日的課題への対処やPDCAの適正な実施など琵琶湖の全体像把握も視野に入れた多様なモニタリング）、「社会的手法の導入や地域活動のデータベース化、可視化」、「調査研究・情報発信」（施策・事業、調査研究、データ収集、モニタリングの連立と成果の事業へのフィードバックをはじめとする情報発信）などの第1期計画期間の対策に係る課題と新たに検討が必要な事項として、「多様な水利用・レクリエーション利用に応えるリスク管理」や「施策・事業の副次的効果の評価」が指摘された。

一方、近年の調査・研究成果や関連する委員会での議論、さらには今後の琵琶湖を取り巻く背景の変化を踏まえ新たな知見を施策に反映することも第2期計画期間に向けて重要である。

また、環境保全の要素技術に限らず、事業における目標の設定・実施・評価のあり方、統合的な地域の水管理システム、行政・住民を交えた地域ぐるみの取り組みなどをセットとして、「琵琶湖モデル」として位置づけ世界に情報発信し、水環境保全において国際的に貢献することも視野に入れることが望まれる。

これらの点検等を通じて明らかとなった点検での課題、委員会指摘事項、調査・研究を踏まえた課題を踏まえ、第2期計画期間での取り組みについて見直しをしていくものとする。